



本書は、グラウンデッドセオリーアプローチ(GTA)の実践的な理解を得るために、2005(平成17)年9月に出版された著作を大幅に修正・加筆した増補版である。すでに旧版がGTAの入門書かつ実践書として高い評価を得ており、いまさら余計な書評は不必要かとも思われるが、質的研究を、適当にではなく、正しく学びたいという人のために、簡単に紹介したい。

編者である戈木氏が述べているように、本書は質的研究の初心者(自信のない者を含む)および質的研究の教育担当者を読者に想定している。実際のゼミを土台にしているため、GTAが極めてわかりやすい方法であると実感できる。その理由は、学生データの解釈における失敗例が、成功例(恐らく)とともに記載されているからであ

臨場感あふれる紙上ゼミでグラウンデッドセオリーアプローチがより身近に

【評者】

高木廣文

東邦大学医学部看護学科教授

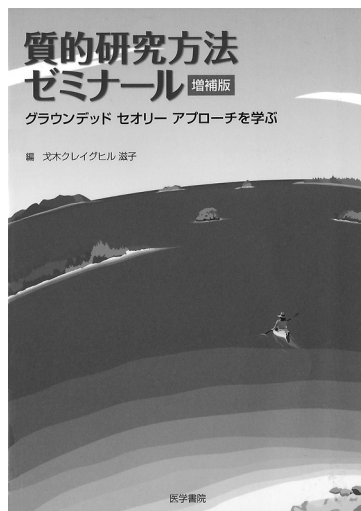
質的研究方法ゼミナール 増補版 グラウンデッドセオリーアプローチを学ぶ

戈木クレイグヒル滋子／編

A5判・236ページ・2008年発行

定価2,730円(定価2,600円+税5%)

医学書院(TEL: 03-3817-5657)



る。上手くできた例は、案外と理解しにくいものであるが、失敗例は現実に関してもやりそうなことであり、かえって学ぶべきことが多いものなのである。

本書の構成は、10のSESSION、4つのSIDE NOTE、および実際のデータ分析の例に使用するための2つのデータ提示からなっている。旧版とほぼ同じ構成であるが、SIDE NOTEの1つには、分析支援ソフトの説明として「ATLAS.ti」の簡単な紹介が追加されている。

まず最初に、量的研究に統計学があるように、質的研究にも方法論が必要であることが指摘されており、GTAによるデータ分析の概略が述べられている。次にデータの収集方法として、インタビュー法と参加観察法について、注意点とともに実際的な手順が説明されている。GTAで重要な役割を果たすプロパティとディメンションに関しては、具体的に詳細な説明がされており、極めて理解しやすい。その後は、実際のGTAのプロセスにしたがって説明されている。すなわち、データの読み込み、切片化、ラベル名をつける、カテゴリーにまとめる(アクシャルコーディング)、比較と理論的サンプリングおよび理論的飽和、パラダイムとカテゴリー関連図および理論の構築(セレクトティブコーディング)について、それぞれ方法論の説明と例題による説明がバランスよく配置されている。最後に、インタビュー法によるデータ分析と参加観察法によるデータ分析について、それぞれまとめて解説されている。

このように本書では、実際にゼミに参加しているようにGTAを体験的に学習し、理解できるように、さまざまな工夫がなされており、楽しくGTAが頭に入っていくことだろう。最後に、A.ストラウス氏に直接学んだ戈木氏ではあるが、本書のGTAは、理論構築をより容易にできるように、概念のプロパティとディメンションに重点をおいた戈木流である点を強調しておきたい。プロパティとディメンションを使うことで概念の把握が容易になり、質的研究にこれほど有用であることを、多くの研究者に実感してもらいたい。